

幼児期における「生きる力」の意味を考える

～ 事例に見る子ども間で育つ力 ～

佐々木 和

(宮城学院女子大学附属幼稚園)

はじめに

平成12年度～13年度の2年間、仙台市私立幼稚園連合会[青葉地区]グループ研修会では、幼児期における「生きる力の基礎を培う保育」をどのようにとらえ、実践していったらいいのかということをテーマに研修した。ここでは「新幼稚園教育要領の解説、1999ぎょうせい出版」の『幼稚園教育と生きる力の基礎』に掲げられている5つのポイントに即して、各教師が具体的な保育の実践事例を持ち寄った。そして、それぞれの保育環境や教師の援助について考察しながら、生きる力の意味を考えた。

今回はその研修成果を踏まえて、平成12年度～14年度における発表者の保育事例を2つあげ、「生きる力」につながると考えられる子ども間の育ちや、教師の援助について検討する。

事例

今回提示する事例は、発表者が担任した平成13年度4歳児クラスと平成14年度5歳児クラスのもので同一クラス(担任も持ち上がり)である。

事例1:「自分の思いを伝える・友達のことを知る」
(2001年11月 3年・2年保育混合クラス4歳児計30名)

N子とM子は3歳頃から一緒に遊んでいた。あるときN子は教師に、好意を感じているW男と手をつなぎたいと言ってきた。教師のきっかけでN子はW男を誘ったが、すぐに断られた。この様子を見ていたM子はN子に、N子が約束をしてもすぐ忘れてしまうと言った。N子はM子に向かって「約束は破らない」と泣きながら訴えるが、M子も負けずに「こないだだって忘れたじゃない」と、N子へ自分の思いをぶつけた。M子はさらにN子に、今までにも約束を守らないことがあったと言いつづけた。教師はM子に、今は約束を破らなくなったので、N子を許してあげるように話し、N子には、次はW男と一緒に手をつなごうと指切りをするように提案をした。N子はW男と指切りをし、泣きやんでM子と列の一番後ろに並んだ。→★ポイント④

<考察>

・M子は今までN子に約束を破られたという思いを伝えられず我慢していたが、このきっかけで自分の思いを伝えることができたと思われる。M子の勇気と2人のかかわりの深さに驚かされた。

・M子がN子に今まで言えなかった自分の思いを伝えたことで、N子はM子が嫌な思いをしていたことを、身をもって知ったのではないかと。N子はW男の前で、自分のいい所だけを見せようとしたが、一番親しいM子に自分の嫌な面を指摘されて、N子はかなり傷ついたと思う。しかし、そこではじめてN子はM子が経験したのと同じ痛みを感じることができたようである。

(事例1における保育環境、教師の援助について)

・子どもたち同士で言い合える雰囲気や、気持ちを伝え合える仲間関係を築いていくことが、集団の育ちを考える上で大切だと思われる。相手の思いを受け入れる経験や、自分がされてうれしかった経験、逆に自分がされて嫌だった経験等を、友だちとのかかわりの中で感じ、子どもが自ら考え、悩み、かかわり方を工夫していくことが、生きる力へとつながっていくと考えられる。幼稚園生活の中でうれしかったことや励まされて勇気が出たこと等、たくさん経験していけるような環境が教師の援助として必要ではないかと思われる。

事例2:「集団に受け入れられるうれしさ」

(2002年12月 3年・2年保育混合クラス5歳児 計28名)

登園後H男とI男が、保育室内に飾られていた輪つなぎを背伸びをして触っていた。それを見ていたM男は、教師が止めるのも聞かずに輪つなぎをジャンプしてこわしてしまった。その様子にクラスの子が「もう、許さない」と、非難の声を高める。M男は、周りの友だちから非難されればされるほど嫌な顔をしたり、力がかかっていこうとしたりして、態度が悪くなっていった。「その謝り方では、みんなは許してくれないよ。許して欲しいのなら、元通りに直して、許してもらえないんじゃないかな」と、教師が提案してみる。M男は少し考え、「わかったよ。直すよ」と言って、すぐに椅子とホチキスを持ってきて、切れた所を直し始めた。M男は何度もあきらめずに直すが、収拾がつかないくらい輪つなぎが切れてしまい、とうとうM男は泣いて暴れ始めた。教師はM男に直し方について具体的にアドバイスをし励ますと、M男もまた直し始めた。その様子を見ていたK男が「手伝ってあげるよ」とM男のそばにいった。R男はその場面で何も言わない教師の様子をうかがっていた。教師がR男に向かってにっこり笑いうなずくと、R男は「僕も手伝ってくる」と言ってM男とK男の所に行き、3人

で輪つなぎを元通りにした。M男はクラスみんなの前で謝ったが、依然友だちから非難の声があがる。教師は子どもたちに、M男が自分で全部元通りに直し約束は守ったことを話すと、子どもたちは納得を許した。K男とR男をM男のそばに呼びだし、M男を手伝っていた理由を尋ねると「だって、大変そうだったんだもん」「一人でやるよりは2人か3人でやった方が、早く直せるでしょ」などと話す。教師がK男・R男のM男に対する思いやりについて、クラス全員に話をすると、M男はK男とR男に「ありがとう」と照れ笑いをしながらお礼を言った。→★ポイント⑤

＜考察＞

・M男自身まだ自分の思いを抑制できずに、事が起こってから後悔する姿が見られる。失敗したり後悔したりする前に、自己抑制力が育てば、もっと友だちとのかかわり方や自分の行動に自信が持てるようになるのではないと思われる。降園後M男は母親に「今日は良い子だったよ」と話をし、ほめてもらうことで安心する姿が見られる反面、友だちから自分の行動について何か言われると「母親に怒られる」と言って怖がったり、「自分はだめなんだ」と口にした。出来るだけ失敗感を味わわず、ほめて自信をつけていく援助が必要であると思われる。M男について、今後も事前に止められるところは言葉で知らせ、自分の感情をコントロールしていく力を育てていきたいと思う。

・クラスの中ではM男が困っている姿を見て、手伝おう・助けてあげようとする友だちが現れ始めた。それまでは、M男を否定的に見ていた子どもたちも年長になり、好意的に受け入れる姿が見られるようになっていった。

集団の中での認め合いや、良さを伝えていくこと、かかわり方を具体的に知らせていくことによって、「M男は怖い」というそれまでの印象をこわしていくことも、教師の援助として必要なことだと考える。また教師は、M男の良さも悪さも丸ごと受け入れた上で接しながら、M男自身の課題をはっきり見極め、M男を取り巻く集団(クラスづくり)と個の両面への働きかけが必要と思われる。(事例2における保育環境、教師の援助について)

・M男に、自己抑制力を育てていくのは難しいが、悪いということがわかっていてもつい行動してしまうことを問題視するのではなく、行動してしまったことをどのように処理していくのかという対処法を、自分自身で学んでいくことが、生きる力につながるのではないかとと思われる。

・自分を認めてもらったという安心感や満足感を伝えたり、ほめてもらう事で他の友だちと同じ立場で受けとめられているということを、子ども自身が認識できるように教師の援助が大切になるとと思われる。

おわりに

子どもの表情をくみ取って接していく事(カウンセリングマインド)や、子ども自身が自分の思いを受けとめてもらったという体験が重ねられるような機会を与えていくことにより、子どもに友だちに対する優しさが育っていくのではないだろうか。

今後は、教師同士間・保護者間・教師と保護者間での「生きる力」の意味の捉え方について、どのような意識の違いがあるのかに關してのアンケート調査を実施し、生きる力の意味を深めていきたいと思う。

《幼児期における生きる力を培うためのポイントと具体的な内容》

	ポイント①「心身の健康を培う活動を積極的に取り入れるとともに、幼児期にふさわしい道徳性を生活の中で身につけるよう指導を充実すること」	ポイント②「自然体験、社会体験などの直接的、具体的生活体験を重視すること」	ポイント④「自我が芽生え、自己を抑制しようとする気持ちが生まれる幼児期の発達の特徴に応じたきめ細かな対応を図ること」	ポイント⑤「集団との関わりの中で幼児の自己実現を図ること」
★ 生 き る 力 と し て と ら え た 内 容	・戸外で積極的に体を動かして遊ぶこと ・自分の思いを伝えること ・前向きに関わっていくこととする ・集団の中で、自分はどの様に行動しているのかを判断する力 ・友だちの意見を受け入れる ・友だちへの思いやりの心をもつ ・自分と他人の思いの違いを知る ・相手の思ったことに気づく ・善悪の区別をする ・悲しい思い、嬉しい思い、楽しい思い、困った思いを友だちとのぶつかり合いの中で経験すること ・友だちに認められる経験をする ・自分に自信が持てる経験の積み重ねをする ・約束したルールを守ろうとする力 ・遊びや生活に必要な約束やルールを自分たちで創り上げていく経験 ・自分で悩み、考え、それを達成していく積み重ね	・実際に自分の手で触れる、見る、物事に関わろうとする意識 ・偶然に発見することの喜びや不思議さを感じる ・こと ・体験した喜び、驚きなどを伝えたいという思い ・自分たちを取り巻く社会のあらゆる事象や、人々に対して興味を持ち、遊び内にも取り入れていく ・死に会った経験、命の大切さに気づく ポイント③「幼児期にふさわしい知的発達を促す教育のあり方を明確に示すこと」 ・疑問を持った、試したりする ・知的興味を持つ ・自分以外の人とコミュニケーションをとりながら遊びを進めていく経験 ・自分の思いを表現したり友だちと一緒に考えた ・自分の課題を持つ ・自分や友だちと考えたり試したりして、納得していくように解決したいという経験 ・観察したり調べたりして、知識を増やす ・もっと知りたいという知識を求める力 ・知恵や知識を応用する力	・自己主張をする ・自分の思いをいろいろな方法で表現してみる経験 ・人と関わる楽しさやおもしろさ、喜びを十分に味わう経験 ・集団の中で自分というものを自覚していく経験(他者からの評価) ・自分と他者とのぶつかり合いの中で悩んだり、葛藤があったり、自己抑制しようとする気持ちを持つ ・互いの意見を認め合い、尊重しよう ・幼児同士が共感し、共に考え、解決の道を探っていく ・トラブルや問題を解決し、乗り越えていく経験 ・難しさや面倒くささから逃避せず、人と向き合っていく力	・自分が安定できる場を自分で見つけていく ・友だちと一緒に遊ぶと楽しい遊びの満足感を味わう経験 ・友だちのあそびをまねする気持ち(憧れや親近感) ・自分なりのめあてや目的意識を持って遊びに取り組む ・友だちと遊びのイメージを共有する体験 ・自分の思いを表現して自分の存在をアピールし、自己発揮する経験 ・集団の中で自分の思いをはっきりと伝え、集団に受け入れられ、解決しようとする力

参考資料：平成13年度仙台市私立幼稚園連合会〔青葉地区〕各ポイントは、新幼稚園教育要領の解説 ぎょうせい出版 1999に基づく